



学校だより/姫川原小

HP <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/himega-s/>

12月



『さっちゃん、ずっと一緒だよ!』

最後の小春日和になるであろうか。閉校記念碑「さっちゃん」の回りで写真を撮っているクラスが多かった。一年生六人はちやうど全員が座れる。みんなさっちゃんが好きだ。初めてさっちゃんに会った時、「さっちゃんは固かったです」と驚いた一年生だ。午後から突然の雪模様となった日。初雪に喜ぶ子どもたちが、今年は違った。教室から一斉に「あつ、さっちゃんが……。」心配の声がどの教室からも出てきたという。一年生はというと、教室の窓から「寒いんじゃないの?」「何か服を着せてあげたいね」と、さっちゃんに向かって叫びだした。翌週学校へ来ると、すっかり雪に埋もれ、首から覗いていた。すると、「雪のお風呂に入っているようだね。」と、子どもは、命があるものと見たり、何かに見立てたり、特別な存在ではなく身近な存在にあつという間になっていた。雪も冷たい存在から、包み込む存在に変わるなど、子どものつぶやきから、担任は発見の毎日だと喜びを語った。そんな雪が降りだした日の朝、音楽朝会で教頭先生がギターを弾きながら「サッちゃんの歌」を唄ってくれた。

サッちゃんはね ブドウが大好き ほんとだよ

だけどちっちゃいから ブドウを半分しか食べられないの

かわいそうね サッちゃん

サッちゃんはね

みんなが遠くへ行ってもね

いつも同じベンチに 座って待っているよ

ありがとう サッちゃん

雪をかき分け、助けに向かった子どもたちだった。

姫川原小学校を 私たちは忘れない

百四十一一年の歴史に幕を閉じる

十一月二十二日、曇一つない青空の中、姫川原小学校の閉校記念式典が盛大なうちに挙行されました。卒業生をはじめとする地域の皆様や旧職員の皆様ら、二百五十余名にも及ぶ大勢の皆様が出席してくださいました。本当にありがとうございました。

二部の「思い出を語る会」では、PTAが中心となり運営しました。PTA合唱でスタートしたオープニングは、式典の子どもたちに負けない程の保護者の力を示すことができました。

夜には、おまけのように地震まで起き、悲しみ、喜び、驚き、全てを味わったような一日となりました。

児童発表では、ランドセルを背負った一年生が登場し幕を開けました。中学生も懐かしい小学校時代の活動を思い起こしながら、後輩らの発表を温かく見守ってくれました。



閉校記念碑は女の子像の「姫川原の風音」と、「姫樹」の2つです。像の作者である峯田敏郎先生が、遠く茨城から駆けつけ、子どもたちにメッセージを下さいました。さっちゃんのお名前を考えた6年生の思いを聞き、除幕式後は、像の回りにみんな集まり記念写真です。全てを終えホッとしながらも、さっちゃんへの喜びが、一段と増した子どもたちでした。

子どもたちは、ステージに上がり見渡すと、たくさんの人たちに驚き、どの子たちも緊張したと、口を揃えて言っていました。作文シートから子どもの声を拾ってみます。

「下級生の発表の際、自分たちの辿った歩みを思い出しながら、自分たちの出番を待っていた。」「体育館の後ろまで届くように大きな声を出そうと頑張った。お母さんが誉めてくれてうれしかった。」「いろいろな人の話から閉校までの経過がわかった。今思うと、百四一年という歴史はすごいことなので誇りに思う。」「全校で校歌を歌うのも、あと何回かと思うと、少し寂しくなってきた。」「頑張って上手にできてうれしかったけど、やっぱり学校がなくなると悲しい気持ちになった。」

練習と本番との違いを、小さな胸に受けとめて臨み、子どもなりに心に残る式典にしようと、頑張った様子が分かります。本当に学校がなくなる現実を、どの子も深く心に刻み、覚悟をするための儀式であったように思えました。児童の発表の一部分です。

休み時間には、一緒に遊び、いっぱい笑い、困った時は、一緒に考え、助け合って、楽しく過ごした仲間たち。晴れた日には、遠く海まで見える四階建ての校舎。青空にそびえ立つメタセコイヤの木。雨の日も風の日も、冬の雪の中でも何年も何年も、私たちを見守ってくれてありがとうございます。私たちみんな姫川原小学校が大好きです。

そんな姫小で過ごした大切な時間を忘れません。姫小で学んだことを生かし、五十八人全員でまっすぐ進んでいきます。

全校で桜の開校記念植樹を

11月12日閉校記念植栽イベントが、コミュニティ、市の農林課、学校の共催で行われました。閉校記念事業として桜の苗木を購入。高床山の桜ロードも植栽のため広げてあり、いい場所に各学年と学校分の記念植樹をさせて頂きました。駐車場から苗木を運び、コミュニティ会長さんらの手ほどきを受けながら、学年毎、力を合わせて頑張りました。根っこがはびこって思うようにいかない場面も、ケンスコを交代しながら子ども達の力で掘り進めていきました。



「楽しい思い出をありがとう 3年」「姫小そらっ子高床山フォーエバー 4年」などと、各学年で考えた言葉を記したプレート 最後に付けました。切り株に座ってお茶を飲んだり、秋を探し拾ったり、久しぶりに高床山の秋を楽しみました。



5年生のお米は超おいしいよ！

5年生が育ててきたお米をついに頂く日がやってきました。11月28日の「笹寿司」特別給食に5年生のお米を活用しました。一粒一粒がしっかりしていて、すごく美味しい米でした。酢飯のためか一段と輝いています。今年の具材は、鶏そぼろ・シーチキン・五目煮・鮭です。

調理員さんも今日だけは手間がかかるので、臨時にお手伝いの調理員さんをお願いし、増員して準備していただきました。



子どもたちは、そんなに調理が大変だとも知らずに、美味しい！連発で食べまくり、お米の美味しさを十分に味わいました。作った調理員さんは、あまりの売れ行きに疲れも飛んだことでしょう。縦割り班での会食だったため、たくさん食べる人に感化されたのか、いつもの何倍もの食欲でした。〇〇さんは何枚も食べたって〜と、学校中が記録話で持ちきりです。最高記録は16枚ということでした。ちなみに大人用に盛られた標準は5枚です。きっとお夕飯はいらないくらいだったのでは？